導入検討段階における地域公共交通の利用ニーズ把握に関する研究

○ 公益財団法人 豊田都市交通研究所　正会員　稲垣 具志
公益財団法人 豊田都市交通研究所　正会員　山﨑 基浩

１．はじめに

現在，公共交通の維持，確保に向けて全国的に様々な取り組みが行われている．鉄道やバスなどの公共交通を利用しにくい地域においては，自治体と地域住民が協働で企画，運営していく地域公共交通の導入が，地域のモビリティを高める有効な手段の一つとして認識されており，導入検討段階から運営，評価に関する具体的手法について議論されている．地域公共交通の導入検討の際には，その目的を明確にしながら，対象地域の特性や移動実態，地域住民のバス利用ニーズを捉えることが重要である．しかし，利用ニーズの把握にあたって，運行前調査で示される利用意向と運行後の実際の利用行動に乖離がある点において課題が指摘されている[1~2]．また，ニーズ調査から運行開始，路線評価までには，およそ数年の期間が必要とされるが，高齢化が著しく進む中，より確かな利用意向を把握するためには，退職による日常の交通行動の変化，高齢による自家用車ばなれといった，住民の加齢に伴うライフスタイルの変容が地域公共交通の需要度にもたらす影響を考慮することが重要であると考えられる．本稿では，愛知県豊田市上郷地区において導入が検討されている地域バスを事例として，年齢層別，地域別の各視点から潜在的利用ニーズの傾向を把握することを目的とする．

２．対象地域と調査の概要

愛知県豊田市では市町村合併を背景に，「豊田市公共交通基本計画（2007）」に基づいて利便性の高い公共交通ネットワークの構築に取り組んできた．その中では，バスの役割として，都心・駅・支所等を相互に連絡する「基幹バス」と，地域コミュニティ内を運行し，交通結節点に連絡する「地域バス」とを明示的に分類しており，特に交通手段の確保が急務であると考えられる中山間地域で先行して整備が進められてきた．

表-1　調査概要

調査時期	2009 年 12 月
調査対象	豊田市上郷地区に居住する中学生以上の住民
配布・回収方法	自治区長経由にて 1 世帯あたり 2 部ずつ配布，自治区長経由にて回収
回収数/配布数※	上郷地域：4,523/9,982（回収率 45.3%） 末野原地域：5,193/18,644（回収率 27.9%）
調査内容	Ⅰ．個人属性 Ⅱ．豊田市における地域バスの認知度 Ⅲ．福祉バス（高嶺交流コース）の不満 Ⅳ．普段の外出状況 Ⅴ．地域バスの利用意向 Ⅵ．地域バスの利用内容

※ 配布数は 2009 年 4 月現在の世帯数を 2 倍した参考数値.

本稿では，市内都市部の上郷地区を調査対象とした．上郷地区は，区域の中心を南北に愛知環状鉄道が運行され，中山間地域と比べて鉄道のサービスレベルは高いが，都市部の他の地区と比べて公共交通網の充実度が低く，高齢者等の鉄道駅までの移動手段確保が課題となっている．このような背景のもと，自治体と住民との協働によって地域のニーズに即した地域バスの導入が 2009 年より検討されている．住民の代表者により組織された検討準備委員会では，地域のバス需要を把握するとともに，地域バス運行の是非を判断するための基礎資料を収集することを目的としたアンケート調査を実施した．調査の概要は**表-1** に示す通りである．上郷地区は上郷地域と末野原地域の 2 地域から構成され，地域会議等の自治組織も地域ごとに設置されており，本調査も地域別に実施した．調査内容のうち，本稿において分析対象となる「地域バスの利用意向」については，導入検討期間として 2 年，運行開始から路線評価時までの期間として 3 年，計 5 年の期間を想定し，「今すぐにでも利用したい」，「今から 5 年以内には利用すると思う」，「今から 5 年以上先には利用すると思う」，「利用しないと思う」の 4 段階で質問している．

キーワード：地域公共交通，利用ニーズ把握，生活環境満足度
連絡先：〒471-0026 愛知県豊田市若宮町 1-1，TEL: 0565-31-7543，FAX: 0565-31-9888

３．利用意向の傾向

（1）年齢層別

年齢層別の利用意向について，上郷地域の例を**図-1**に示す. なお, 地域間では大きな差はみられなかった.

「今すぐ利用」と「5 年以内に利用」は，年齢層別の傾向が同様であり，50 歳代で最も利用意向が低く，高齢になるにつれて意向が高まる.「5 年以上先に利用」については，50 歳以上において多くの割合を占めており，加齢に伴うモビリティの低下を考慮した将来的ニーズが現れているといえる.

（2）沿線・非沿線別

各地域を構成する自治区について，区域が駅勢圏[1]の大半を占める「沿線自治区」と，そうでない「非沿線自治区」とに分類して利用意向をみたものを**図-2** に示す．独立性の検定の結果，上郷地域のみで両者に統計的有意差（α=1%）が認められ,「今すぐ利用」「5 年以内に利用」「5 年以上先に利用」のいずれにおいても非沿線自治区の方で割合が高い．ここで地域別に住民の生活環境満足度評価[3)]をみると（**表-2**），鉄道が両地域とも同水準で整備されていることから「公共交通機関の便利さ」に大きな差はないが，他の 2 項目については上郷地域の方で相対的に満足度が低い．また，地域内の商店売場総面積[4)]は，上郷地域で 6,970 [m^2]，末野原地域で 23,887 [m^2]であり，買い物ニーズへの対応力において上郷地域の方が弱いといえる．以上のことから，住民の生活環境に対する地域の担保性が弱く，生活環境満足度が低い地域では，鉄道の利便性がバス利用意向に影響を及ぼしているものと推察される.

４．まとめと今後の課題

本稿では，地域公共交通の検討段階において潜在ニーズを把握するため，ニーズ調査から運行開始，路線評価までの期間を見据えた将来の利用意向について分析を行った．その結果，高齢であるほど加齢に伴う生活スタイルの変化を考慮した利用意向を示すこと，住民の生活環境に対する担保力が弱い地域では，駅勢圏内外地域間で利用意向の違いが現れやすくなることが示された．今後は，運行後の実際の利用行動との傾向比較を行い，利用ニーズ把握のあり方についてさらなる考察を行うことが必要である.

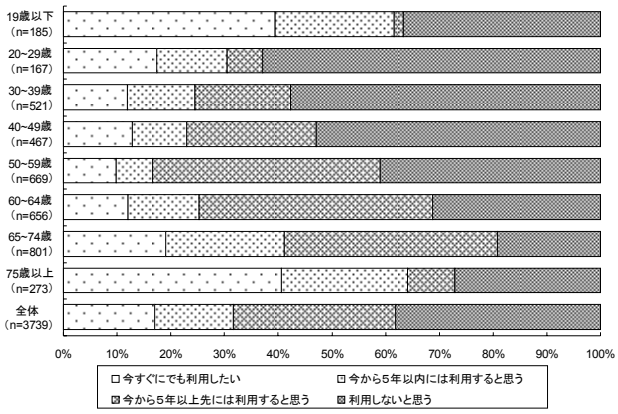

図-1　年齢層別の利用意向（上郷地域）

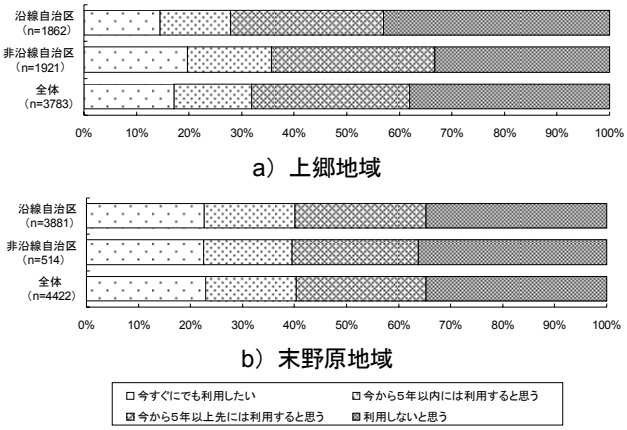

図-2 沿線・非沿線別の利用意向

表-2　住民の生活環境満足度評価点※

項　目	上郷地域	末野原地域
公共交通機関の便利さ	-1.29	-1.15
通勤・通学の便利さ	-0.66	-0.27
医者にかかるときの便利さ	-0.58	-0.12

※　生活環境の満足度を「満足（2 点)」～「不満（-2 点)」として得られた回答について，各項目の平均点を算出したものである。

【謝 辞】

本研究の遂行にあたり，豊田市上郷支所ならびに上郷・末野原地域バス検討準備委員会の多大なるご協力を得た．ここに記して心より感謝申し上げる次第である.

【補 注】

[1] 豊田市では,「豊田市生活交通確保基本計画（2003)」において，鉄道駅勢圏を駅から半径 1km の範囲として定めている.

【参考文献】

1) 申連植, 山川仁, 秋山哲男, 北川健介：コミュニティバスの事前・事後分析と利用者による評価, 第 16 回交通工学研究発表会論文報告集, pp.213-216, 1996.

2) 北川博巳：高齢者の健康づくりと交通 ―高齢者モビリティの観点から―, 交通科学, Vol.39, No.2, pp.7-12, 2009.

3) 豊田市総合企画部企画課：第 17 回市民意識調査報告書, p.177, 2008.

4) 豊田市:豊田市の商業(平成 19 年商業統計調査結果報告書), pp.23-24, 2009.